

※学-Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

## 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果から授業改善へ ～学習内容の理解・定着を図るために～

### 教科に関する調査の結果

7月28日に令和4年度全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。全国の平均正答率を上回ったのは中学校数学でした。一方、全国平均を下回った小学校算数では割合の理解、国語では小中学校ともに質問の意図を捉えて自分の考えをまとめることに課題がみられました。 ※ ( ) の数値は全国平均との差

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
平均正答率	64.5(-1.1)	62.2(-1.0)	62.6(-0.7)	68.2(-0.8)	51.9(+0.5)	48.1(-1.2)

### 小学校算数の「割合」の問題に着目！

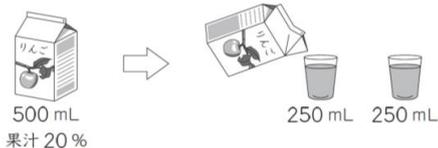
【小学校算数】

2(3) 果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ。

2

果汁入りの飲み物について考えます。

- (3) リンゴの果汁が20%ふくまれている飲み物が500 mLあります。この飲み物を2人で等しく分けると、1人分は250 mLになります。



250 mLの飲み物にふくまれている果汁の割合について、次のようにまとめます。

250 mLは、500 mLの $\frac{1}{2}$ の量です。

このとき、

上のア)にあてはまる文を、下の1から3までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になります。
- 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合は2倍になります。
- 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になっても、果汁の割合は変わりません。

正答率 三重県：18.7% 全国との差-2.7

2(3)で求められている力

日常生活の場面に即して、数量が変わっても、割合が変わらない場合があることを理解していること

割合を用いて問題を解決する場面において、数量（飲み物の量）が変わっても割合（飲み物の濃さ）は変わらないことを理解することに課題があります。

<子どもたちの解答状況>

	解答類型	解答した割合	
		三重県	全国
誤答	1 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になります。	70.9%	67.9%
誤答	2 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合は2倍になります。	9.3%	9.3%
正答	3 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になっても、果汁の割合は変わりません。	18.7%	21.4%

果汁が20%含まれている飲み物を二人で等しく分けたとき、飲み物の量は $\frac{1}{2}$ になりますが、同様に果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になると誤って捉えている児童が7割を越えています。

## 指導のポイント

○日常生活の事象において、二つの量の関係を表す数である割合が変わらないことを豊富に体感させることが大切です。

例えば・・・

一つの平ゴムから、長さの異なる二つの平ゴムを切り取ったとき、元の長さは異なっているが、伸び具合は同じであることを体験したり、二色の絵の具を混ぜて新しい色を作るとき、同じ色をたくさん作るためには、二色の絵の具を初めと同じ割合にして混ぜればよいことを体験したりしておくことが考えられます。このような体験によって、割合の学習の際、数や式を日常生活の場面に関連付けて理解できるようにすることが大切です。

## 分析結果に基づく授業改善を！

子どもたちの「わかるようになりたい、できるようになりたい」という思いに応えるために、各学校において授業改善の取組を進める必要があります。

そのために・・・

○調査結果を活用して、各設問の解答状況から子どもたちのつまずきがどこにあるか把握しましょう。

○学校全体で子どもたちの課題を共有し、各学年の教科指導につなげましょう。

○授業や補充学習、家庭学習での繰り返し指導の取組を進めるとともに、適時子どもたちの学習内容の理解と定着状況の確認を行いましょ。

みえの学力向上県民運動HPから日常で使えるワークシートや指導資料がダウンロードできます！



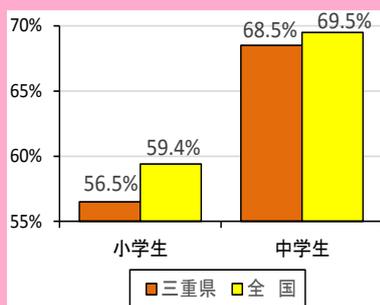
みえの学力向上  
県民運動HP

## 学習状況に関する調査の結果

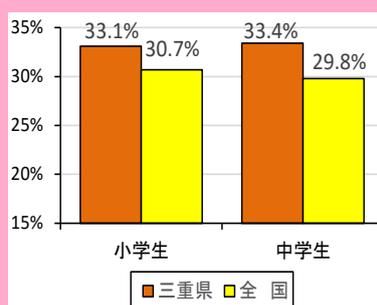
全国と比較すると、三重県の小中学生が平日にテレビゲームや携帯電話等を使用する時間は長く、学習時間や読書時間が短い状況が続いています。

- ・1日あたりの学校の授業以外の勉強時間では、「1時間以上」と回答した割合は小中学生ともに全国を下回っています。休日は平日以上にその差が大きくなっています。子どもが主体的、計画的に学習できるよう、学校・家庭・地域が一体となって、学習習慣の確立に向けて取り組む必要があります。
- ・平日のテレビゲームの時間と、SNSや動画視聴等の時間について、「3時間以上」と回答した割合は、小中学生ともに、全国を上回っています。スマートフォンの使用等について家庭で話し合ってルールを決めて守るなどの自己管理能力を育て、生活習慣を確立していくことが大切です。

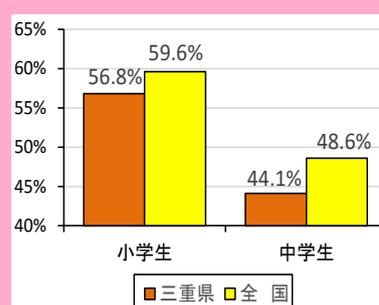
平日の学習時間  
(1時間以上)



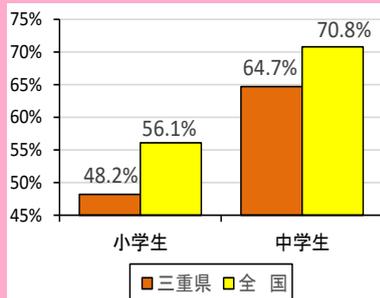
平日のテレビゲームの時間  
(3時間以上)



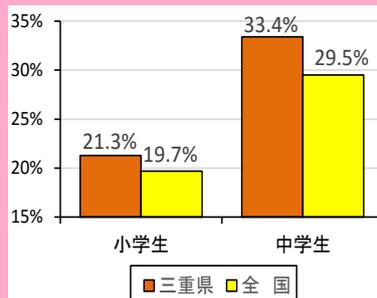
授業時間以外の読書  
(平日10分以上)



休日の学習時間  
(1時間以上)



平日のSNS、動画視聴等の時間  
(3時間以上)



学習習慣を身に付けることで、がんばりぬく力や授業への集中力が高まったり、様々な学習分野への興味関心が深まったりします！



# 「考え、議論する道徳」に向けた取組をさらに進めましょう

【令和3年度「みえ県民カビジョン及び三重県教育ビジョン」調査結果より】

小学校においては平成30年度に、中学校においては平成31年度に、道徳が「特別の教科」化されました。図1からは、現行学習指導要領への移行期間前に比べると、各学校において、学校長の方針の下、道徳教育推進教師が中心となり、全教師が協力して組織的に取組が進められていることがわかります。

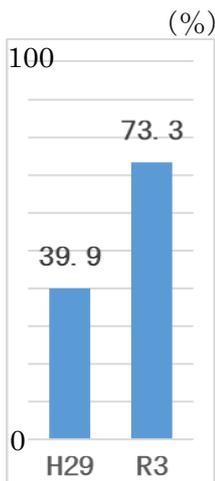


図1：道徳教育推進教師を中心に組織的に進めている学校の割合

図2：道徳科を進めるにあたって

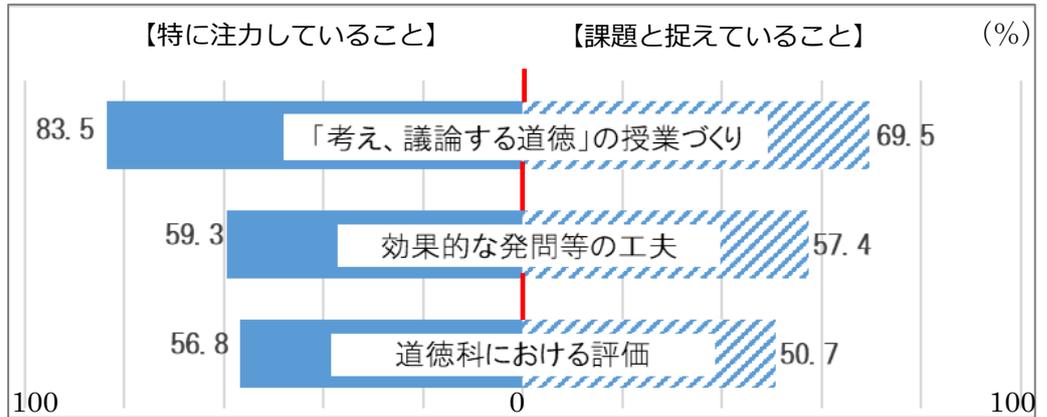
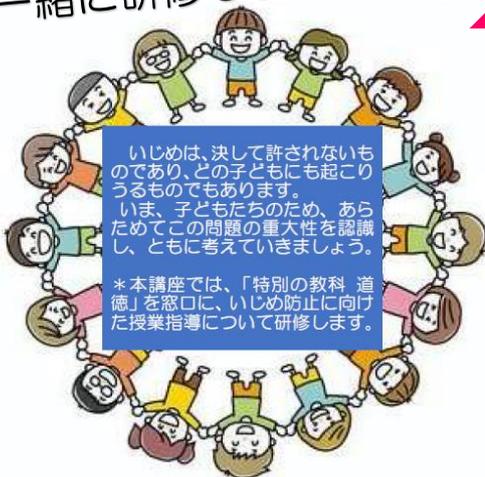


図2をみると、道徳科推進にあたり、8割以上の学校が「『考え、議論する道徳』の授業づくり」に注力しています。また課題と捉えていることは、注力していることと同一程度の回答となっています。

このことから、各校において、道徳教育に対する意識の高まりとともに、更なる授業改善のために、指導力向上に向けた取組が模索されていることがわかります。

今後も、「考え、議論する道徳」の実現に向け、各校における研修の充実が図られる必要があります。

一緒に研修しませんか？



## いじめ防止につながる道徳教育推進講座

道徳が「特別の教科」化された背景の一つに、いじめ問題があります。子どもたちが、いじめに関する理解を深めるとともに、自分自身のこととして考え、議論する中で、いじめをなくすために自己の道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度を育成できるよう、道徳科授業の質の向上を図ることが大切です。

県教育委員会では、「いじめ防止に向けた道徳教育推進講座」を開催します。

「特別の教科 道徳」におけるいじめ防止につながる教材の授業化に悩んでいる方、授業構成のヒントを得たい方、そして「考え、議論する道徳」の授業を学びたい方は、具体的な実践事例や考え方等が講師から示されますので、是非御参加ください。

【対象】小・中学校等道徳教育推進教師、及び小中学校等教員、指導主事等

【日時】小学校：令和4年12月6日（火） 中学校：令和4年11月21日（月）

（両日とも）14:00-16:30・オンライン開催 \*校種を超えた参加も可能

【研修内容】講演・講師による模擬授業・参加者によるワーキング

（演題）「いじめ防止に向けた『特別の教科 道徳』の効果的な指導事例について（仮）」

（講師）岐阜聖徳学園大学 非常勤講師 河合宣昌 先生

【申し込み方法】各市町等教育委員会を通じて以下の担当課までご連絡ください。

三重県教育委員会事務局 小中学校教育課（TEL:059-224-2963）

## 2学期からの授業研究（校内研修）の推進に向けて

教員の資質向上を図るためには、授業研究をはじめとする日常的な校内研修等の充実が求められています。今回は、8月25日（木）に大阪教育大学 木原俊行教授を講師に招いて実施した「第4回授業研究推進リーダー育成研修」から、授業研究において解決すべき課題を設定する視点を紹介します。

### 第4回授業研究推進リーダー育成研修の概要

この研修では、授業研究を推進する学校の中核的な人材（授業研究推進リーダー）を育成することを目的とし、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業研究を推進する具体的な方策等について、講義と演習を組み合わせて年間5回実施しています。第4回研修は、模擬事後検討会を通して受講者が自校の校内研修会を見直し、見えてきた課題について解決策を明らかにすることをねらいとして実施しました。

#### 1. 事後検討会の内容

校内研修会の運営・企画について学ぶために、受講者は架空の小学校における第5学年算数「四角形と三角形の面積」の模擬研究授業を参観した後、事後検討会に参加しました。

##### 【事後検討会の流れ】（全65分）

- ・主体的に考える子どもの姿について
- ・協働的に学ぶ子どもの姿について

- ① 個人思考（7分）
- ② **グループ協議①**（15分）
- ③ 全体発表①（10分）

##### 【解決すべき課題の設定】

- ④ **グループ協議②**（15分）
- ⑤ 全体発表②（10分）
- ⑥ 自分化（8分）

##### グループ協議①

参観の視点をもとに、**見取った子どもの姿について**話し合う。

子どもの姿を整理・分類して、模造紙にまとめる。



付箋を使って意見を交流・分類することで、話し合いの活性化を図ります。また、協議の視点を明確にすることで、話し合いが深まります。

全体発表①をふまえて、解決すべき課題を絞り込む。（下記視点を参照）

##### グループ協議②

課題を解決するための**教師の手立てについて**話し合う。



課題の解決策を可視化することで、授業改善のポイントが明確になります。

#### 2. 受講者の振り返り

- ・2回のグループ協議を通して論点を絞り込んでいく方法を自校の校内研修会で活用したいです。
- ・課題を整理するためには、書く、並べる、比較するということがシンプルでわかりやすいと思いました。グループごとに意見をまとめた模造紙を並べ、比較することで、共通点や相違点が浮かび上がると感じました。

どのように解決すべき課題を設定すればいいのですか？

### 解決すべき課題を設定する視点

#### グループ協議の共通点から課題を設定

意見をまとめた模造紙を並べ、比較し共通点を明確にして課題を設定する

#### 研究テーマや協議の視点に即して課題を設定

研究テーマを具体化した視点から協議内容を整理・分類して課題を設定する

#### 授業研究のつながりから課題を設定

前回の授業研究の協議内容と重なる点から課題を設定する

#### 授業者（学年）のリクエストから課題を設定

授業者が最も解決したい子どもの姿から課題を設定する

#### 外部講師などの理論をふまえて課題を設定

理論をキーワード化して、課題を整理・分類する